

年	名前	活動内容
2005年	①日高 善澄 (厚木支部長)	10年間に渡る地道なボランティア活動や6年間の国際交流等、顕著な社会活動を実施しました。
2005年	②福田 清志 (石川勤機支部長)	地域社会で青少年育成活動を積極的に取り組む「なるもの子」チャレンジ活動(年5〜6回)講演「生きる力を奪うもの〜テーマ認識を夸〜」(年10回)を開催しました。
2005年	③カナダフロント支部	地域社会に対する貢献活動「キッカカン/イベント(麻薬更生施設への寄付)」を10年以上に渡り積極的に推進しました。
2006年	①南部道院	地域社会に対し、10年間に渡り、「紀州橋の重教助隊」として救助活動やボランティアなど、顕著な社会活動を実施しました。
2007年	①柏田 隆久 (元西宮甲支部長、元観徳学園少林寺宗法部監督)	全国高等学校少林寺宗法連盟の設立に尽力し、高校における課外活動としての少林寺宗法の普及の基盤を確立する一方、高校教員・校長として日常の活動により、少林寺宗法に対する信頼性の向上に貢献しました。
2007年	②宮本 延春 (小坂井支部所属宗士)	ベストセラーとなった著書「未来のきみが待つ場所へ」「オール1の落ちこぼれ、教師になる」にて、少林寺宗法を通して身に付けた勇気と自信と行動力が挑戦の原動力となったことを紹介し、少林寺宗法の教育性の周知に貢献しました。
2007年	③長坂 徳久 (橋本西道院長)	1995年10月より実施している児童養護施設「六地学園」における少林寺宗法の指導、2006年1月に設立したNPO法人「こころからたのび総合教育 青夢学園」における幼児から高齢者までの広い年齢層を対象とした様々な指導活動を柱とした総合教育は地域社会に対して広く貢献し、少林寺宗法の周知性を高めました。
2007年	④佐々木 真人 (宇部道院長)	「宇部落語 長屋」や自らの「バンド活動」において、積極的に地域の文化活動への取り組みを通して、地域社会へ貢献し、そのことにより、市民に対して広く少林寺宗法の周知性を高めました。
2008年	①大家 正己 (石川大聖寺道院長)	地元の子供供養が少子化のため存続の危機があり、地元からの要請を受け、道院の協力により毎年継続している。(1998年〜不審者対応のため一般宗士による見回り(2002年〜)開祖子一を毎日とし、命の尊さを考え、宗士が1年間毎日日籠りをやり続け広島市長に贈呈。またアルバムを日々集めて、施設・病院等へ車椅子を寄付。(2000年〜)各小学校からの要請で親子護身術講座を年2〜3回開催しました。
2008年	②大石 哲也 (北条東武道院長)	「反核平和の日リレー」と題し、愛媛県下300キロの中の北条地区約10キロを8区間に分け道院宗士が先走、先走後主催者に千羽鶴を贈呈。 「日本ユニセフアワード」に賛同し「風車めし所」と題して健康づくりのワークショップと募金活動を行いつつにも地域の交流を併せた独自のイベントを主催、集まった募金はユニセフを通じ、開発途上国の子供たちのために設立されました。
2008年	③中京大学少林寺宗法部	20年の長期に渡り、護身術講座への協力などとして社会に対する活動に尽力しました。警察から、市内でも特に護身術の需要が必要とされている地区においての活動であり、その功績は大きく、この活動は警察からの表彰、テレビでの放映により、少林寺宗法の周知性を高めました。
2009年	①ポルトガル少林寺宗法連盟	地域社会であるサルバテラ地区の防犯を目的とした貢献活動を積極的に推進しました。
2010年	①福家 健司 (砂川高校少林寺宗法部 監督)	八王子医療事務所看護師養成所において特別講座を開講して、16年間に渡り活動を続け、継続性はもちろんのこと、受講者が幹部幹部として全国各地に赴任していることから、社会に対する貢献は大きく、教育現場における少林寺宗法の普及発展に寄与するとともに青少年の育成に尽力しました。
2010年	②鈴木 道山 (大日道院長)	10年以上にわたり、市民文化祭にて少林寺宗法の演説を発表することで、広報を続けています。また、社会貢献として、障がい者と車イスダンスをする活動や盲学校・高齢者施設の奉仕などボランティア活動を毎年実施に行っています。
2010年	③木村 弘史 (境港道院長)	社会貢献活動として10年以上にわたり、重度障がい者の初級車椅子介助活動を行っています。また、開祖デーでは、毎年保護者とともに海岸の清掃活動を行っています。
2010年	④橋本 義政 (姫路白雲道院長)	ボランティア活動の一環である更生保護事業の「保護司」としての長年の功績により顕著な受賞。指導者として少林寺宗法の周知性を高めました。
2011年	①滋賀県少林寺宗法連盟 ②京都府少林寺宗法連盟 ③大宮府少林寺宗法連盟 ④兵庫県少林寺宗法連盟 ⑤奈良県少林寺宗法連盟 ⑥和歌山県少林寺宗法連盟 ⑦関西学院少林寺宗法連盟 ⑧関西学生少林寺宗法連盟 ⑨近畿高校少林寺宗法連盟	関西地区の2府4県連盟・各連盟は、道院における関西フェスティバルや、奈良県平城道院300年祭における3000名を超える集団演武など、連盟合同による活動(関西地区における少林寺宗法の普及に貢献しました。
2011年	⑩夏川 勉 (新潟不二道院長)	教員を退職後、フリースクール「夢想舎(むそうしゃ)」を開校し、非行や不登校などにより高校に行けなくなった若者の自立を目指す活動に貢献しました。
2012年	①砂野芳弘 (多賀城道院長) ②山田 隆 (埼玉入間道院長)	③少林寺宗法グループ東日本大震災復興支援本部の活動拠点として専有道場を長期にわたり無償提供し、そこに集うボランティアスタッフにも積極的な援助と協力しました。 東日本大震災の被災地でのボランティア活動、連盟として積極的に多くの宗士を継続して派遣するなどの活動を行いました。
2012年	④関東学生少林寺宗法連盟	東日本大震災発生後、いち早く支援物資を被災地へ届け、かつ継続的に行いました。また、新潟県内で合宿を開催し、被災地の宗士、特に子どもたちを励ます等の活動を行いました。
2012年	⑤新潟県少林寺宗法連盟	東日本大震災発生後、いち早く支援物資を被災地へ届け、かつ継続的に行いました。また、新潟県内で合宿を開催し、被災地の宗士、特に子どもたちを励ます等の活動を行いました。
2012年	⑥神奈川県少林寺宗法連盟	東日本大震災の被災地における「ラーメン」展は、人と人を繋ぐ拠点として宗士はもとより被災地の多くの人を励ました。
2013年	①岐阜県少林寺宗法連盟 ②愛知県少林寺宗法連盟 ③三重県少林寺宗法連盟 ④東海美濃部少林寺宗法連盟 ⑤東海学生少林寺宗法連盟 ⑥愛知県高等学校少林寺宗法連盟	「ぼんご清濁団体」での910名による団体演武を通して宗士の結束力と絆を深め地域社会への少林寺宗法の広報に貢献しました。
2013年	⑦佐竹令子 (小坂井道院長) ⑧岡田義夫 (西尾東道院長) ⑨水田正章 (刈田常道院長)	⑨「思いっきり遊んじやおうアワー」を主催し、東日本大震災により、被災された児童の身心両面の支援に貢献しました。
2013年	⑩沖縄県少林寺宗法連盟	長年に渡り、地域に必要とされる護身術教室を積極的に開催し地域社会に貢献しました。
2014年	①京都翔英高校	2013年春の第85回記念センバツ高校野球に出場し、新聞などに少林寺宗法が競技として掲載され、広く少林寺宗法の広報と信頼・信頼性の向上に貢献されました。
2014年	②秋田湯沢スポーツ少年団	2011年8月に東日本大震災の復興支援活動として秋田湯沢スポーツ少年団が発端となり、「ひまわりプロジェクト」として児童らが結成され、2013年までの3年間継続して東日本大震災により、被災された児童の身心両面の支援に貢献されました。
2014年	③大塚三ノ丸道院 小林 佳久 道院長	「震災のあった2011年以降、東日本大震災復興支援活動として大塚市民に呼び掛けを行い、有志を募って被災地でのボランティアを組織し、大塚市一被災地間の輸送手配を提供するほか、市民の勇気による支援金の募金活動をするなどの市民運動、「大塚ボランティアプロジェクト」を関係者との協力を以て、世代や性別を超え、広く地域に密着した社会貢献活動がなされました。
2015年	①金剛禅総本山少林寺古川道院	宮城県の古川道院は、東日本大震災で多大な影響を被りました。しかし、多くの宗士・保護者が協力し、現在も活発に活動されています。その中でも、子供たちの学習力と社会性を養う青少年育成活動を行い、地域社会に貢献されています。また、広報活動にも尽力し、地元関係者、メディアなどに対して少林寺宗法に対する理解と協力の輪を広げられました。
2015年	②全国高等学校少林寺宗法連盟	全国高等学校少林寺宗法連盟は、1973年の発足以来、長年にわたり高等学校教育の場における少林寺宗法の普及・発展に専ら努めています。2014年8月には、千葉県成田市においてインターハイ正式種目としては初めての大会が開催されました。大会を通して少林寺宗法の人づくりのあり方を多くの関係者に披露し、少林寺宗法の信頼と信頼性の向上に貢献されました。
2015年	③全日本学生少林寺宗法連盟	全日本学生少林寺宗法連盟は1965年の設立以来、半世紀にわたり全国8地区の学生連盟が団結し、全国の学生宗士の中心となり活動されています。少林寺宗法全日本学生大会をはじめとする、各種行事を通して、全国の学生宗士の交流を促し、また長年にわたって継続している本部合同における献金活動(震災におけるボランティア活動にも取り組まれます)に貢献されています。
2016年	①林 昌幸 (埼玉早瀬道院長)	埼玉早瀬道院の林昌幸道院長は、現在も東日本大震災復興支援活動に継続して取り組まれています。さらに、2015年9月に発生した茨城県東海地震においても、災害発生直後より、仲間およびかけがえのない活動を開始し、ご自身の車で機材を持ち込み、被災者の復興に尽力されました。各地に赴き周囲と協力し献金の精神に溢れた活動を展開し、教えを実践し指導者として積極的な姿勢を示すと共に少林寺宗法の信頼と信頼性の向上に大きく寄与されました。
2016年	②伊藤昇平 (東水沢道院副道院長/元・岩手東山道院長)	伊藤昇平氏は、東日本大震災直後より復興支援活動に継続されています。がれき撤去・運搬・材木伐採・車列り・社職いた製作・桜ライン植樹などあらゆる作業に対して優れた技能を發揮し、活動の指導・サポート役として活躍されています。その専任精神に溢れ周囲と協力する姿勢はまさに教えの実践であり少林寺宗法の信頼と信頼性の向上に大きく寄与されました。
2016年	③根本和史 (SONY少林寺宗法部)	根本和史氏は、東日本大震災復興支援活動に継続して取り組まれています。毎月1回阪前高田市に赴き、様々な復興イベントの参加、協力など地元の方との交流、及び活発な情報発信など広報活動を通じて、少林寺宗法復興高野チームのシンボル的な存在の1人です。その専任精神に溢れ周囲と協力する姿勢はまさに教えの実践であり少林寺宗法の信頼と信頼性の向上に大きく寄与されました。
2016年	④少林寺宗法武蔵専門コース大阪地区	大阪武蔵は、「一人の百歩より百人の一步」をテーマに11年継続して献金運動を実施され、毎回100人の献金を目標とされています。大阪府知事・日本赤十字社大阪府支部長からも感謝状を授けられました。学生を中心に多くの方が協力一致し教えの実践である社会奉仕活動を展開し少林寺宗法の信頼と信頼性の向上に大きく寄与されました。
2017年	①大西寺七(坂出寺修道道院長)	大西道院長は、約20年前より、仲間とともに、地域発展のための活動を実施してこられました。宗士のみならず、地域の法縁者と連携協力し、美化・清掃をはじめとする様々な活動を継続されました。
2017年	②奈良信貴道院	奈良信貴道院は、これまでの1回に亘り、特別義援金100人における、少少女宗士を中心とした交流会を企画実施され、世代を超えた地域のつながり、楽しみを継続的に創出されました。
2017年	③少林寺宗法九州連絡協議会	九州連絡協議会は、2016年4月熊本・大震災における被災復興支援活動ならびに11月「全国大会」においていたを成功に開催するなど、発足以来、九州各県が困難な状況下においても、連携協力し取り組まれました。
2017年	④タンザニア共和国少林寺宗法 ダレスサラーム支部 ウンガ・セントラル支部 イーストコースト・ムジマ支部 ダレスサラーム・セントラル支部 オイスターベイ支部	タンザニアには、6つの支部があり、全ての支部が長年にわたり、孤児センターへの寄付、病院清掃、献金等を実施され、各支部が団結して社会貢献活動を継続されました。
2018年	①金剛禅総本山少林寺 大阪府教区	金剛禅総本山少林寺大阪府教区は、2014年より、IT推進委員会主導のもと、道院活動をサポートするためのIT化を進め、組織づくり・広報活動に貢献されました。
2018年	②大阪府少林寺宗法連盟	大阪府少林寺宗法連盟傘下の茨木市少林寺宗法連盟が中心となって、18年間、30回にわたって清掃・美化活動を継続し現在では宗士のみならず、ボランティア団体や市の行政なども巻き込み500名を超える社会活動へと発展させました。